

総括:あなたは「深度の人」である

〇〇さんの認知特性は、スピード・反射・応答性ではなく、
構造・深度・意味への感受性と再編成力にフォーカスされた“少数特化型”です。
そのぶん、現代的な即応型労働とは相性が悪い場面もありますが、
「波を前提とした生態系」や「自分だけの構造に合った表現」においては、
非常に希少なパフォーマンスを発揮できると考えられます。

1. 概観 | 全体プロフィール

領域	強み	注意点
感覚処理	微細な空気・温度・音・気配の変化への感受性(詩的描写)	過敏傾向・環境ノイズに弱く、感覚疲労が蓄積しやすい
空間認知	静的な視覚には強み	動的・三次元的な距離感はやや不安定(運転時に顕著)
注意・記憶	1点集中型。特定の軸には深い没入力	注意分配と作動記憶に困難あり。マルチタスクや初見作業に弱い
情報処理・反応速度	慎重で思慮深い構造化能力	認知～動作の遅延。即時判断・応答には苦手意識あり
実行機能	信念に基づく行動力・構造設計力	衝動制御と感情切替に波。無気力や先延ばし傾向あり

2. 領域別詳細

A. 感覚処理と空間認知

- 視覚・聴覚ともに***“情報量が多すぎる”環境**で疲労しやすい。
 - 音・光・温度など、微細な刺激に気づきやすいが、反応が早すぎる or 遅れる傾向あり。
 - 動的な空間判断(例:車間距離・駐車)は苦手＝運転ストレスが高い。
-

B. 注意・記憶・処理

- 注意の分配・切替が困難。複数刺激があると処理が遅れたり、過集中して他が疎かに。
- 作動記憶に不安定さ。見通しが立たないと誤操作・失敗しやすい。
- 未知作業には即応できず、見通し・構造が可視化された環境で初めて実力発揮。

C. 情報処理速度と反応

- 遅めの判断・動作速度。慎重だが、咄嗟の判断に弱い。
- 作業指示は「即理解・即実行」より、段階分解・反復確認が前提。

D. 実行機能と感情制御

- 抑制・感情制御にムラ
- 感情高ぶり時に「自動制御が効かない」ことがある。例：怒り→破壊的行動、衝動買い。
- 一方で、信念への忠実さ／強い自己規律意識もあり、二重性を抱える。
- “波”に合わせた労働・生活構造の設計が絶対条件。

3. 性格の強み

上位特性	関連する認知特性と補足コメント
寛容さ(TEMPERANCE)	衝動性や怒りを「後から自責」し、再接続しようとする内的倫理の存在。 短期的には対人衝突を招くが、長期視点では回復力の源に。
勇敢さ(COURAGE)	波があっても信念に基づく行動を貫く力。実行機能のハンディを超えて「やり遂げる」場面もある。

誠実さ(COURAGE)	自己観察と記述力の高さ＝行動・発言の「文脈」や「背景」を丁寧に扱える。信頼形成の土台。
スピリチュアリティ(TRANSCENDENCE)	意味や全体構造への志向＝抽象化・再構築力と強くリンク。孤独耐性とも関係。
知的柔軟性(WISDOM)	物事を多面的に捉え直す力。過去の失敗すら「構造的な理解」へと昇華する強み。

4. ハンディ構造の例(行動レベル)

行動傾向	背景にある特性・課題
運転が困難	注意分配・空間認知・反応遅延の複合課題。
新規作業でミスを繰り返す	作動記憶／構造化未完了のまま入ると判断力が落ちる。
衝動的な発言や買い物	実行機能の揺らぎ／情動調整力のムラ
期日直前でしか動けない	報酬系回路の問題／短期刺激がないと着手困難
長時間勤務で急激に崩れる	活動量と神経持久力の低さ／リカバリーに睡眠必須

5. 設計指針(活かし方・補い方)

活かす方向性(活かす脳)	補う設計(支える構造)
詩的な抽象性／構造的語り	自由記述や壁打ちなど「自分の速度」で出せる場を活用
信念に基づいた行動意志	外圧よりも「自己定義的な言語」をモチベーションに設計
慎重で注意深い観察	タイムリミットを伴う環境より、「熟考できるタスク」を選択
波を前提にしたスタミナ設計	スケジュール設計に「オフ／クールダウン日」を組み込む

衝動／感情の暴発リスク

感情リスクの高い場面には「間・人・構造・モノ」を挟む
